

第 70 回国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール東京都大会 特賞

郁文館グローバル高等学校 1 年

堀井 爽夏

課題①

本年は SDGs の中間年。あなたが、ユースリーダーとして SDGs 達成に向けた若者の取組を提案するとしたら、どのような提案をするか。

副題

Be Brave Little One!

なぜ、日本の教育は座学ばかりなのか。

SDGs4 番「質の高い教育をみんなに」が指す、質の高い教育とは？ 激動の時代を生きゆく私たちは正解のない課題、未知の問いについて考え抜く力が求められています。今の日本の暗記や座学に重きを置く教育スタイルを、質の高い教育と呼べるのか？ そしてこれが世界で通用する人材を育めるのか？ この疑問のもと私は、アクティブラーニングと呼ばれる生徒を主体とした探求型教育へのシフトを加速すべきであると考えました。

そこで、国連本部で毎年行われる「模擬国連」という世界水準のプログラムから着想を得ながら、日本の政治分野と融合させた「模擬選挙」というアイデアを考案しました。生徒が主体となって立候補から議会まで民主政治のプロセスを肌で学びます。肌で学ぶことで、探求力や議論力のある人材の育成を目指します。全国高校生政策甲子園にてベスト 3 という結果を残せたこのアイデアをアクションに移すために、私は区議会議員や民間企業からの後援をいただきながら、「区長になろう! 政治×ミライの教育」と題した学生イベントを開催しました。

企画する過程で、行動を起こさなければ決して知ることのなかった議員の方々の情熱、日本の教育の実情、なにより「若者が社会に働きかける」ということの意義を体感しました。

イベント当日、様々なバックグラウンドを抱えた 60 を超える学生が共に探求し議論するそのまなざしを見たとき、私のアクティブラーニングへの期待が確信へと変わりました。また、参加したナイジェリア国籍の高校生が言いました。「僕の国は、学校に行っても先生の話ばかりです。模擬選挙、ナイジェリアの友達にも教えてあげたいな」。私が、アクティブラーニングの世界での可能性に気付かされた瞬間でした。

この経験を糧に、来年は「人種のモザイク」と呼ばれるカナダに 1 年間身を置いて、同世代の活動家との協働や次世代の教育に関する議論に精を出しながら、質の高い教育の本質へと迫っていきたいと考えています。

私はもともと新しい挑戦をすることに強い苦手意識がありました。いつも周りの目を気にして引っ込み思案な性格に悩んでいた私に、人生の恩師である英語科の先生が『Be Brave Little One』

という絵本を贈ってくれました。それは先生からの「何事にも勇敢に、強い意志を持って挑戦してみなさい」というメッセージでした。様々な活動に自主的に取り組むことができるようになった私の原点は“Brave” 勇気という言葉です。

世界が目指す 17 個の目標の達成に向けて、私たち若者だからこそできること。それはアクションすること。そのために“Brave”であること。どんなに大きなプロジェクトも、小さなアイデアから始まります。私も教育に対する小さな疑問から現在まで繋げてきました。未知の課題を柔軟に思考し、探求し、行動すること。新しい世代が世界を牽引する時代が目前に迫っています。私たちが、小さなアクションを積み重ね、世の中に新しい風を吹かせていくことこそが持続可能な未来への第一歩です。

世界は今、新たな時代の分岐点にあります。争いの絶えぬ社会を前に、私たちはもう一度ひとつにならねばなりません。恩師からの絵本で好きな言葉があります。

“Be brave to explore in the daring unknown”。未知の世界を探求する勇気を持て。

同じ地球の一員として、手と手を取り合い、未知の世界を、私たちの勇気あるアクションで切り拓いていこうではありませんか。その未知が、いつしか未来を照らす道となることを信じて。“Be Brave Little One!”。

ご清聴ありがとうございました。